

-コード変換テーブル作成ツール-

CDTBLEDIT 使用方法

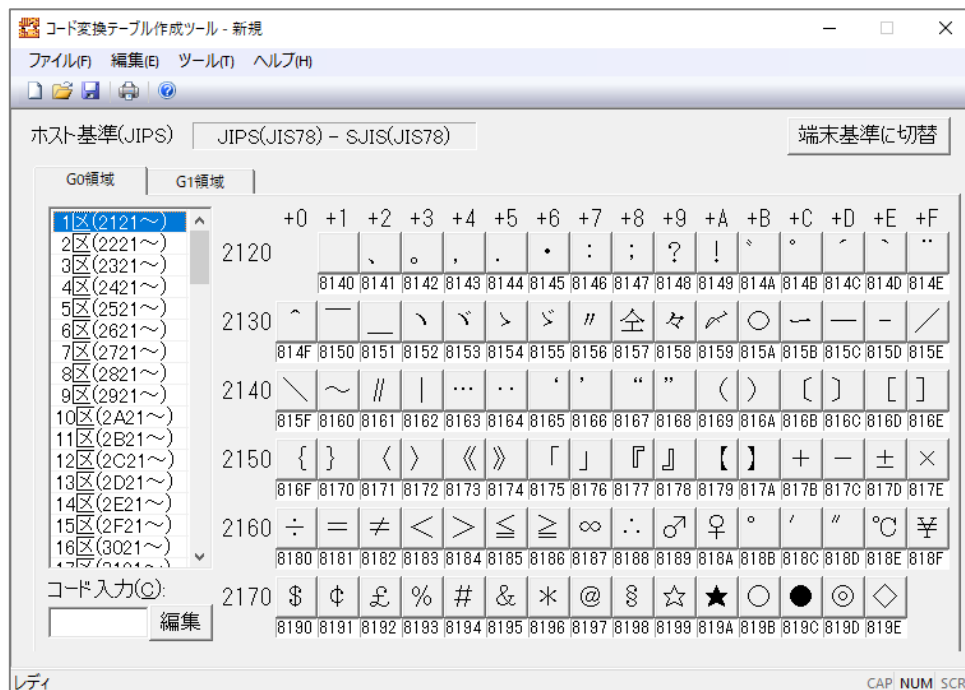
本資料は、コード変換テーブル作成ツール(CDTBLEDIT)の代表的な使用方法について記載しています。

I. コード変換テーブル作成ツールの起動

- ① <OLF/DB 製品のインストールフォルダー>\bin フォルダーに配置した CDTBLEDIT.exe をダブルクリックで起動してください。

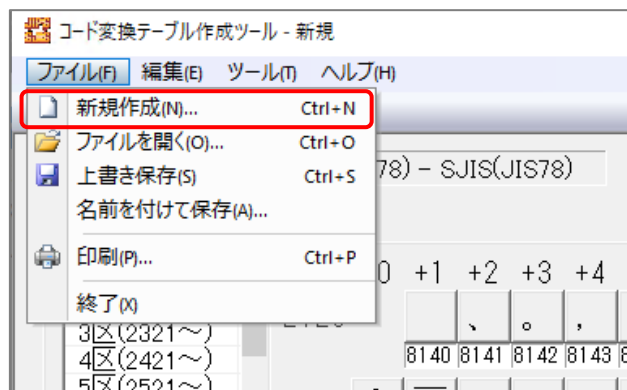
※コード変換テーブル作成ツールを起動すると、以下の画面が表示されます。

この画面を、ホスト基準メイン画面と呼びます。

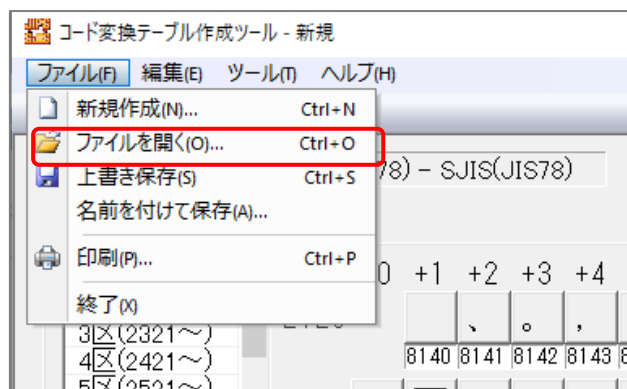


II. コード変換テーブルの作成(編集)準備

- ① 新規にコード変換テーブルを作成する場合は、メニューの[ファイル]-[新規作成]を選択してください。



- ② 既存のコード変換テーブルを編集する場合は、メニューの[ファイル]-[ファイルを開く]から編集するコード変換テーブルを開いてください。

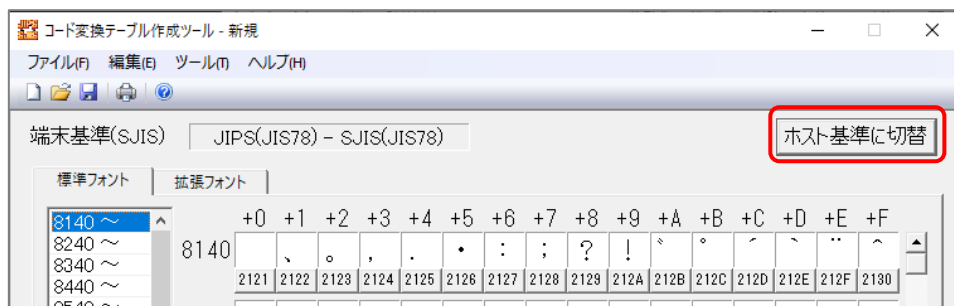


※JIPSTOOL(旧コード変換テーブル作成ツール)で作成したコード変換テーブルを CDTBLEDIT で編集する場合は、注意事項があります。「IV 注意事項」を参照してください。

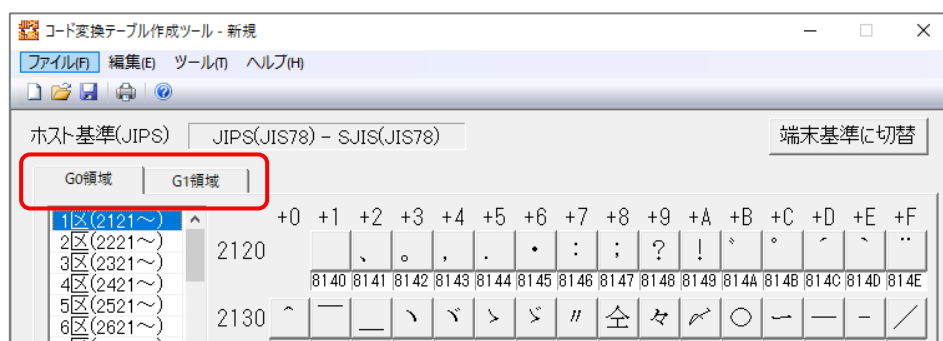
III. コード単位で定義

コード変換テーブルをホスト側コード単位で設定してください。

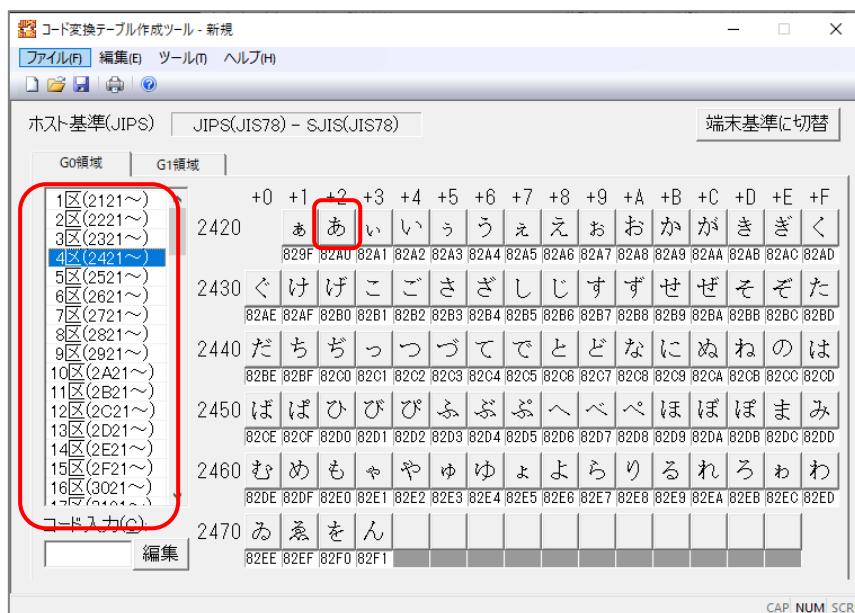
- ① 端末基準メイン画面が表示されている場合は、[ホスト基準に切替]ボタンを押して、ホスト基準メイン画面に切り替えてください。



- ② G0集合文字のコードを変更する場合は、ホスト基準メイン画面の[G0領域]タブを選択してください。
G1集合文字のコードを変更する場合は、ホスト基準メイン画面の[G1領域]タブを選択してください。



- ③ ホスト基準メイン画面左側の[区一覧リスト]で、変更するコードが含まれる区を選択した後、変更するコードの文字ボタンを選択して、[コード単位変更(ホスト基準)]画面を表示してください。

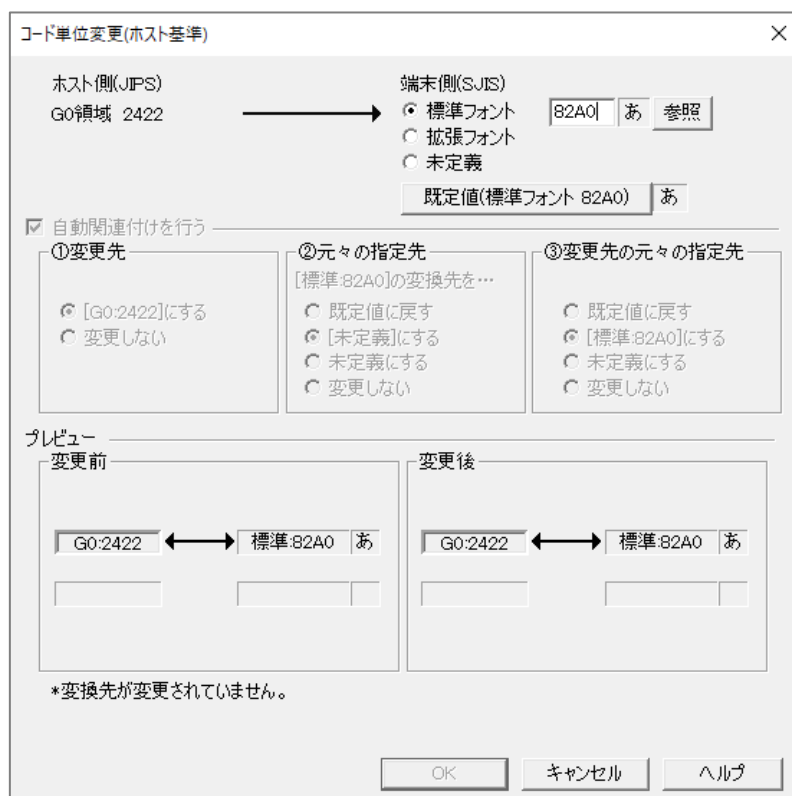


- ④ [端末側(SJIS)]の文字コードを設定してください。

標準フォントを選択し、シフトJISコードを入力してください。

未定義に設定する場合は[未定義]を、既定値に戻す場合は[既定値]ボタンを押してください。

※OLF/DB製品は拡張フォントに対応しておりません。

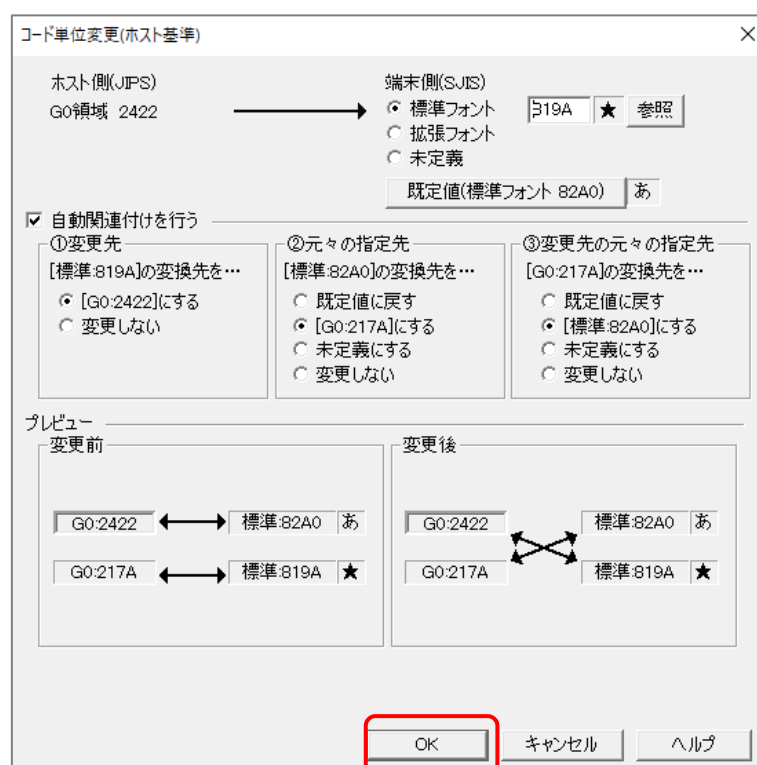


※[参照]ボタンを押すと、[文字参照]画面が表示され、文字の選択によりシフトJISコードを変更できます。

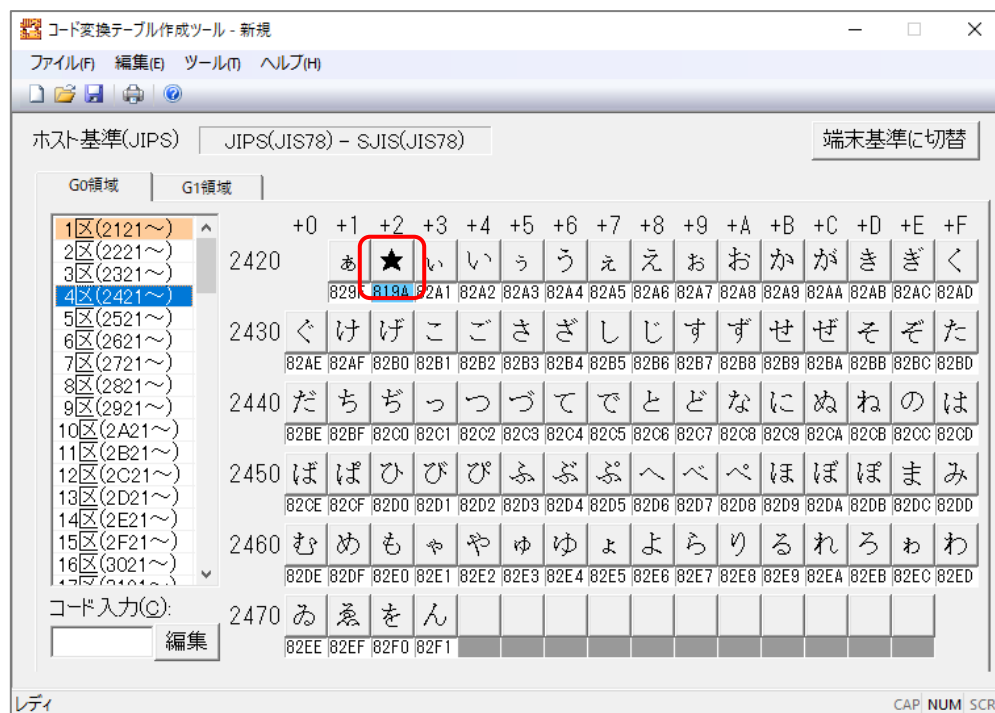


⑤ 設定完了後、[OK]ボタンを押してください。

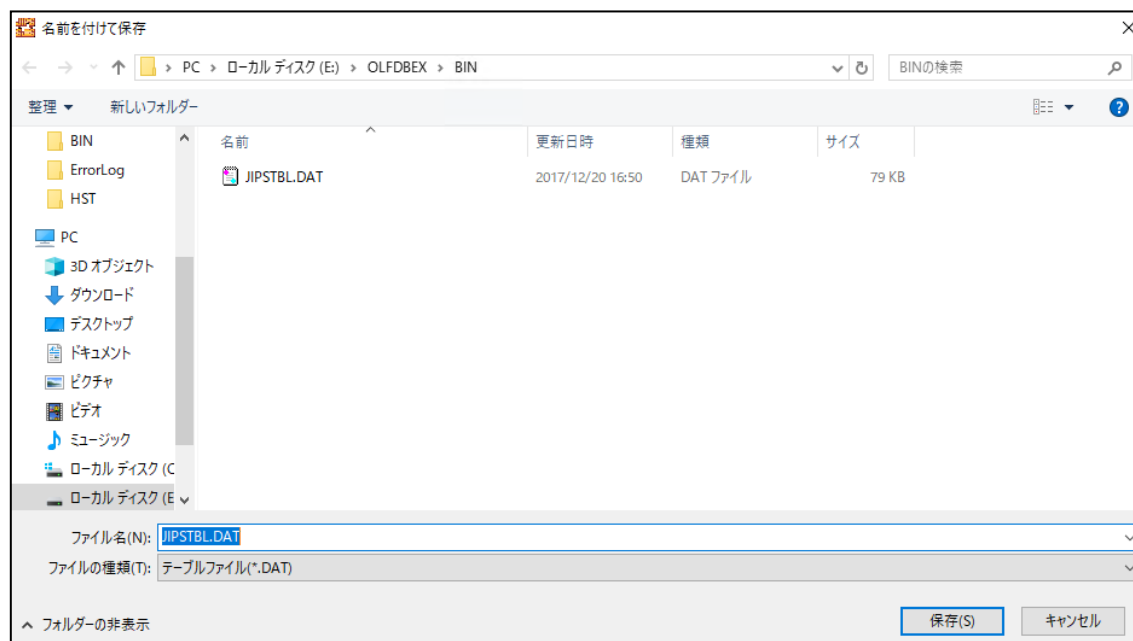
※設定変更しなかった場合は、[OK]ボタンを選択できません。



⑥ 設定後は、設定した箇所の色が変わります。

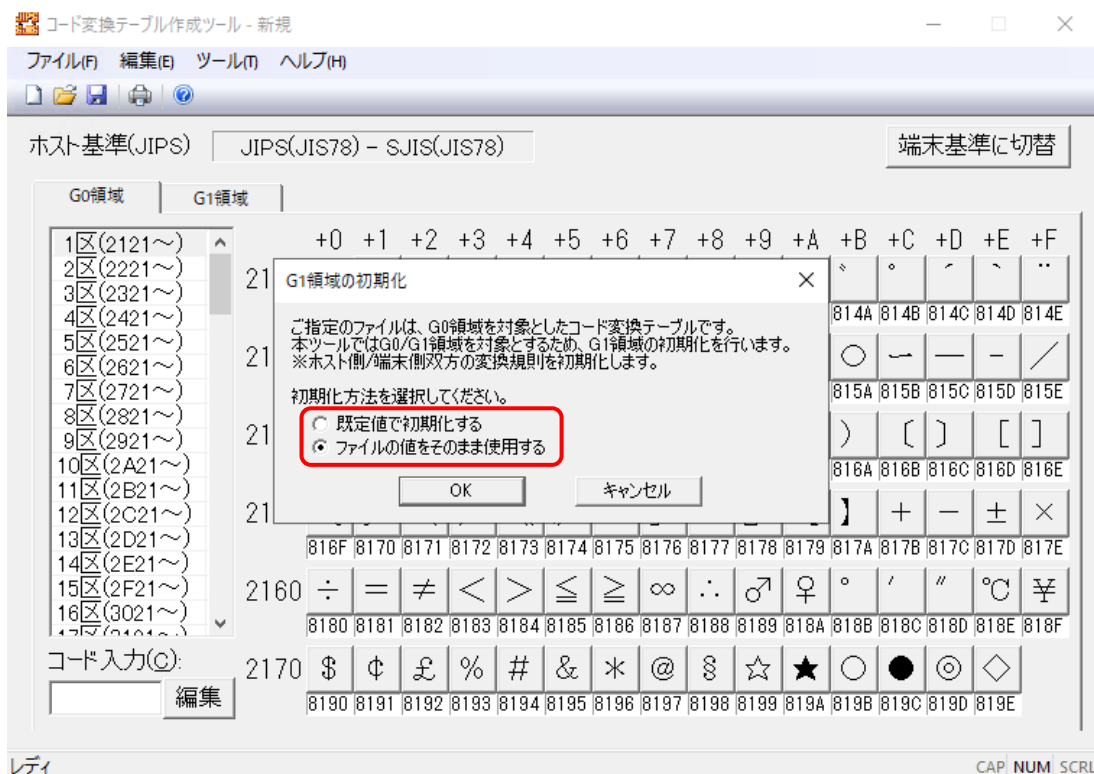


⑦ [ファイル]メニューの[名前を付けて保存]を選択して、コード変換テーブルを保存してください。



IV. 注意事項

- ① CDTBLEDIT で端末側(SJIS)の文字コードを設定する場合
必ず「標準フォント」を選択してください。
- ② JIPSTOOL(旧コード変換テーブル作成ツール)で作成したコード変換テーブルを CDTBLEDIT で編集する場合
JIPSTOOL(旧コード変換テーブル作成ツール)で作成したコード変換テーブルを CDTBLEDIT で開くと、
G1 領域の初期化方法について選択肢が表示されます。**必ず「ファイルの値をそのまま使用する」を選択してください。**G1 領域の設定をそのまま(JIPSTOOL で作成したコード変換テーブルのまま)保持できます。



誤って「既定値で初期化をする」を選択して初期化してしまった場合は、配信する G1 領域の文字を標準フォントで設定しなおしてください。標準フォントで設定せずに OLF/DB 製品で配信すると、コード変換エラーとなります。